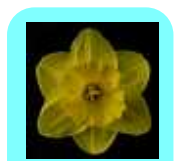




# JOCA Kyushuだより

特定非営利活動法人九州海外協力協会  
Japan Overseas Cooperative Association of Kyushu

## 謹賀新年

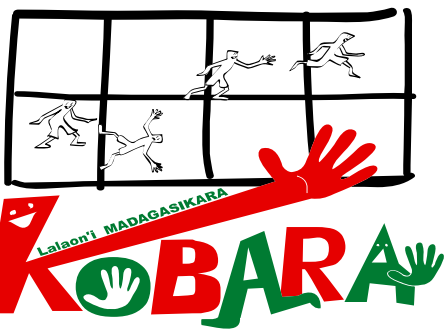


スイセン  
花言葉  
自己愛  
神秘(全般)

昨年はリーマンショックの影響で世界の社会・経済が揺れ動き、日本も政権交代で先ゆき不透明な状況を呈しています。オバマ大統領のwe can change ではありませんが、今年は国民が安心して暮らせる歳になることを期待せずにはられません。世界各地で活躍している協力隊員諸兄妹も、この厳しい情勢の中で、ボランティア活動を通じて、任国の国造り、人造りに青春の情熱を傾注していることと思われます。

新政権の事業仕分けで、JICA事業も対象になっていますが、将来の国際人育成の観点からも、協力隊事業は良い事業としての見直し対象になることを願わずにはおられません。政権交代で何がどのように変化するのが待ちの姿勢ではなく、知恵を出しあい、何が出来るのか考えて、JOCA九州が地域社会にしっかりと根を張る歳にしたいと心を新たにしています。

## 第1回クバーラ大会 in FUKUOKA



12月5日(土)JICA九州体育館で、第1回目のクバーラ大会が行われました。北九州市内の3つの学童クラブ(青山、槻田、西本町)から34名の児童とJICAの青年研修員20名の混成8チームでトーナメント戦を行い、第1回チャンピオンを競いました。そもそも、クバーラとはマダガスカルが現地の遊びにルールを加えスポーツ化したものです。遊び方は、左の図のように、鬼がライン上で行く手を阻む鬼ごっこのようなものです。単純な遊びですが、基礎体力はもちろんのこと戦略やチームワークが非常に重要です。マダガスカルでは、このクバーラは小学校で体育の一種目として認定され、全国大会も開催されました。



ゴールを目がけて猛ダッシュ!!

大会はとても白熱し、レベルの高い試合が続きました。それもそのはず、各チームにはリーダーがあり、うまくチームを統括していました。リーダーは協力隊のOVや九州大学の学生サークルRICKのメンバーで、英語が上手にしゃべれない児童と研修員の間に入り、円滑にコミュニケーションが図れるように工夫し、戦略についても監督としていかに勝つか采配をふるっていました。最初研修員に物怖じしている子もいましたが、クバーラをやった後はとても仲良くなり、パスが見えなくなるまで見送ってくれた研修員に手を振る児童の笑顔がとても印象的でした。言葉の壁を越え心から仲良くなれるクバーラを今後も福岡、日本全国に広げていきたいと思えます。みなさんも学校や近くの仲間で行いたいと思われたらJOCA九州までご連絡下さい。みんなでクバーラやりましょう!!

(田淵)

## 平成22年 1月～3月までの予定表

1月 4日 御用初め

1月24日 熊本県ボランティア家族連絡会

1月26日～2月12日 JICA青年研修事業

2月 6日 長崎県ボランティア家族連絡会

2月 7日 佐賀県ボランティア家族連絡会

2月13日 (社)青年海外協力協会評議員ブロック会議

2月20日 国際協力中高生エッセイコンテスト表彰式

2月21日 鹿児島県ボランティア家族連絡会

2月27日 福岡県ボランティア家族連絡会

特定非営利活動法人九州海外協力協会  
 〒812-0011  
 福岡市博多区博多駅前3丁目28-4 陣内ビル2F  
 TEL: 092-415-6536  
 E-mail: ngoqshuint@joca-kyushu.or.jp

## 会員募集のお知らせ！

当会の活動に、ご賛同頂ける団体・個人を、募集致しております。会員の方には「JOCA Kyushuだより」を送付する他、当会主催、共催のイベント情報をご案内致します。

	正会員	賛助会員
個人	¥3,000	¥2,000
団体	¥10,000	¥10,000
法人	¥30,000	¥10,000

ご関心のある方は、当会までお問い合わせください。

## ～情報・ご意見お寄せ下さい～

「JOCA Kyushuだより」では、皆さまからのご意見、各種情報をお待ちしております。国際交流や国際協力に関する有益な情報であれば何でもOKです！！お気軽にお寄せください！

## 発行 特定非営利活動法人九州海外協力協会

〒812-0011

福岡市博多区博多駅前3丁目28-4 陣内ビル2F

TEL: 092-415-6536

FAX: 092-415-6518

HP: <http://www.joca-kyushu.or.jp/>E-mail: [ngoqshuint@joca-kyushu.or.jp](mailto:ngoqshuint@joca-kyushu.or.jp)

## 活動報告

今日も、世界のどこかで笑い、怒り、涙し、汗を流して奮闘中の隊員活動報告をお届けします！！

### シニア海外ボランティア 19-4次隊 原田 安馬(福岡県太宰府市出身)

メキシコシニア海外ボランティア(SV)派遣に続いて、2008年3月から大洋州バヌアツ共和国に二度目のSVで来ています。バヌアツは豪州とフィジーの間に位置し日本からの時差は+2時間、83の島々からなる火山列島です。人口は約23万人、メラネシア系と言われる民族です。本島エファテ島にある首都ポートビラ市は南緯18度で、熱帯では仕事の前に「猛暑と闘っている」という感じです。熱帯は10ヶ月間の夏、2ヶ月間(7~8月)の初秋と言う感じで、年中半袖シャツで通勤し、海水浴が出来ます。雨はスコールを含め1日に数回降ることもあり傘と帽子とサングラスは年中必携です。高温多湿の猛暑を克服すれば豊富な果物が待っています。パパイヤ、マンゴー、アボカド、パイナップルなど。バヌアツは1980年に英国とフランス両国の「世界でも珍しい共同統治」から独立した関係で英語・フランス語・現地語が話されています。現在ボランティアは協力隊24名、SV13名です。職種は協力隊が学校教諭、村落開発普及員、病院関係、土木など。SVはコンピュータ関係、観光業、病院関係、放送、自動車などです。

私の仕事はバヌアツ気象庁でのコンピュータのシステムエンジニアとして、ソフトウェア面、ハードウェア面の保守をしています。気象庁は気温・湿度・風向・風速・気圧・潮位などを年中無休で観測しそのデータをコンピュータで



中央が筆者

分析し、予報によって 市民生活(ラジオ、テレビ、新聞)、航海、航空に寄与しています。来年3月までの2年間です。帰国したら体験した仕事と異文化を日本の皆さんに紹介したいと思います。質問のある方は [haradamx@hotmail.com](mailto:haradamx@hotmail.com) へメール下さい。(原田さん)

## JICA青年研修事業

この度、大洋州諸国から学校(理数科教育)の先生が来福し18日間の研修(JICA青年研修事業)を行いました。研修員の母国は、フィジー、バヌアツ、ミクロネシア、マーシャル諸島、ツバル、ニウエの以上6カ国で、人数は20名でした。

研修中、小・中・高等学校を訪問させて頂き、算数(数学)、理科の授業を参観し、教授法や理科の実験方法について学びました。特に学校現場において、教員の授業に対する姿勢、生徒への情熱と愛情に感動していました。研修員は、ここ福岡で学んだことを基に行動計画をまとめ、本国に戻り実施していく予定です。この場をかりて、本研修に関わった皆様方に厚く御礼申し上げます。

ありがとうございました。

(齊藤)

### 青年海外協力隊 19-2次隊 藤元 靖子(福岡県宗像市出身)

日本って街が綺麗で明るくて驚きました!でも一番の驚きは物価の高さ!!マックのあまりの高さに「ここは高級マックですか?」とわけをわからない質問をしたのは、アフリカはモザンビーク(以下:モザン)から帰ってきた藤元さん。そんな彼女は、警察学校で空手の授業や同僚への技術指導を行っていたという、まさに女武道家。最初は女だからとなめられていた。しかし組手をして投げ飛ばせば次からは寄ってこないほど怖がられてしまったという。唯でさえ動くことが嫌いな彼らは、できれば空手をやりたくない…。アフリカで人気の空手も芽が出てくるのはごく少数だったという。それでも、日本で空手を学んだら…と、素質のある生徒もいたようだ。



モザンでは、鼻水たらして、泥だらけで、裸足で駆け回る子どもたちと、毎日夢中になって遊んだ。初めはそんな子どもたちを「汚い」と思って抱っこできなかったけど、彼らの顔をみると「服なんか汚れてもいいや」と思ってきた。一日に何度もお風呂(行水)に入る彼らに、自分は一度しか入らないと言うと、逆に「汚い」と言われた彼女。彼らにどんな目で見られていたのか…(日本人=汚い?)日本の正しい文化や風習を伝える任務も担っている協力隊です(汗)。そんなモザンも、やはり治安と教育は高いお金を出してでも買うもの。日本は治安もいいし、質の高い教育も揃っている。だけど日本は人と人のつながりが浅くなっていて、それがモザンは近所みんなが家族のよう。皆が助け合って生きている。モザンで生活をして、日本の若者としてこの違いをそう語る彼女。現在の日本で誰もが感じていることで、気付いているようで気付かないふりをしているかのようなこの「違い」を、やはり感じずにはいられなかったのか?当然のごとく提示してくれた。

海外では学ぶことも多いが、何よりも日本のことをよく知る機会にもなっている。そんな協力隊員の原石が、まだまだこの九州には眠っているはずだ…。出て来い! (田中)



講義に聞き入る研修員



ペットボトルを使った顕微鏡作り

## 地球市民どんたく & BanBenさんの植林活動報告

10月10・11日と行われた「国際協力フェスタ地球市民どんたく2009」に出展しました。昨年好評だったBanBenさんの岩塩等の販売と今年は新たな試みとして絵手紙と一緒にオールドスに苗木を贈ろう！というコンセプトで、来場者の方々に絵手紙を書いていただき、1枚につき苗木を5本プレゼントすることにし、植林活動の為オールドスに向かうBanBenさんに渡していただきました。(山本)

今回は私の取り組んでいるオールドス緑化活動にご協力いただきありがとうございます。お礼の代わりに、10月24日の植林当日の様子をご報告いたします。

6:30起床、7:00朝食。快晴、無風、天候は申し分なし。

10時半に植林地であるウラングワ砂漠に到着しました。今回の植林地はこの春植林したところの隣です。今回は日本人グループ15名とスージー村の牧民30名、林業局職員5人が参加。天気にも恵まれどンドン沙柳のラインが伸びていきます。私は少し植えた後は専らカメラマン、そして牧民の会話に耳を傾けます。

ウールやカシミヤの価格が下がり続けていることが、彼らの一番の悩み。これを解決するためにはまず羊や山羊の頭数をここの生態系に適った規模まで減らすことが大事で、それは生態回復にも役立ちます。しかし収入は減ってしまうので、植林と同時に高付加価値の農業や羊や山羊の品種改良など収入増加につながる事業にも取り組まなければなりません。問題山積ですが少しずつでもいい方向へ向かっていけるように、今できることからやっていくしかありません。

昼食の時間、いつもなら村の集会所にいったん戻るのですが、この日はあまりに天気がいいので、昼食を砂漠まで持ってきてもらうことにしました。おかずはもちろんモンゴル式肉じゃが「ホイツアイ」。青空のもと、砂漠で食べる昼食は最高に美味い。その後、先日行われた「地球市民どんたく」で30人以上の方々に書いてもらった「オールドスへの絵手紙」を牧民たちに配りました。これが思った以上に好評でした。みんな奪い合うように手紙の絵を見合いながら、日本からのメッセージを心に刻んでいました。その後、乾柳を少々植えて植林終了。村の集会所へ行き牧民主催の宴会へ。いつものように歌と白酒(40度の酒)の激しくも楽しい宴会。最後に出てきた「羊の丸煮」は最高でした。これまでの取り組みはHP(オールドスの風で検索)をご覧ください。(坂本さん)

BanBenさん・・・坂本 毅さん 青年海外協力隊OB(中国/日本語教師)

04年から「モンゴルの塩を売って砂漠を緑に戻す会社」バンベンを立ち上げ、内モンゴル・オールドスの砂漠化を改善するべく取り組んでいる。



ナランファさん(名前の意味は「ひまわり」は「ひまわり」の絵を見て大喜び。



食い入るように手紙を眺める。

## 森と私たち Forest & Our lives

2009

去る11月21日(土)に今年度最後の「森と私たち2009」を実施しました。今回は「森調査隊！」と題して、5つのグループに分かれ、五感を使って森林散策し、森の生き物をじっくり観察しました。その後、森で気づいたこと、発見したことを思い思いにグループでまとめ、発表を行いました。「冬イチゴが美味しかった!」、「普段なかなか感じるこゝろがない自然の息吹を感じました!」などの感想がありました。最後に福岡県保健環境研究所の須田 隆一先生から「生物の多様性・文化の多様性」というタイトルでお話いただきました。生物多様性とはなんだろう?といったことから、生物多様性がもたらす恵みやその危機また生き物と文化の多様性に至るまで分かり易くお話いただきました。当日は子ども8名、在福外国人6名を含む35名が集いました。自然の繋がりについて考え、また参加者同士もさまざまな繋がりができた一日でした。

今年も楽しく実りのあるイベントを企画しています。みなさまの参加をお待ちしています!! (山本)



何を見つけたかな?!



木の実を貼り付けよう



グループ全員での発表